

おれんじニュース

No 240

2010年3月号



1月27日由布岳にかかる雲海

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★				★山行の一步は会合から★		
	3月			4月		
運営委員会	9日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館	13日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	5日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館	2日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	23日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館	27日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館



日岳にて地図と磁石の学習



祇園山頂上1班



向坂山の残雪



虚空蔵山の頂上にて



スキー場にはかまくらがありました



九州島発祥の地とかいてありました。



3月の山行計画

部	技術研修部	ひまわり山行部	山行部	自然保護部
月 日	14日(日)	19日(金)	28日(日)	31日(水)
山 名	大分県由布市 熊群山(804.9m)	熊本県 玉東の山 三ノ岳～二ノ岳	福岡県 福知山(900m) 鷹取山(633m)	大村市 野岳湖と桜道歩 き
地 図	豊後今市	伊倉・植木・肥後 船 津・熊本	金田	諫早・大村
集合場所	JR 諫早駅裏ロータリー 6:00 JR 西諫早駅 6:10	西諫早駅前 7:00	JR 諫早駅裏ロータリー 6:00 JR 西諫早駅 6:10	JR 諫早駅 9:02 竹松駅スタート
帰着時間	18:30頃	18:00頃	19:30頃	17:00頃
歩行時間	4時間		4時間程度	5時間
難易度	一般向き(鎖場有り)	初心者向き	一般向き	初心者向き
交通手段	マイクロバス	マイカー	マイクロバス	JRと徒歩
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	有り	有り	有り	なし
参加費	5,000円	フェリー代・ガソリ ン代等	5,000円	実費
申込期限	満員になり次第	3月12日(金)まで	満員になり次第	25日
集 約	佐原	江崎	田中	水江
備 考	歩行時間は短い が 難所の鎖場あり 雨の日は危険	行程 西諫早駅～多比 良港～長洲～天 水みかん展望台 ～ループ橋～三ノ 岳～二ノ岳玉東展 望台 (帰路は往路に同 じ)	虎尾櫻鑑賞	コース距離:14km シュシュー裏見 の滝—野岳湖公 園—松屋旅館— 松原駅—途中 桜・カップパ像など
感想提出	3/23日(全体集会)まで	3/30日(火)まで	4/7日(水)まで	4/10日(土)まで



4月の山行計画

部	山行部	ひまわり山行部	技術研修部	技術研修部
月 日	11日(日)	16日(金)	24日(土)	29日(木)
山 名 (行事)	耳納連山 高良山 368m 舛方山 607m グライダー山白山 677m 発心山 698m	天草矢筈岳 (476m)	雁俣山	由布岳
地 図	田主丸・草野	湯出	葉木	別府西部
集合出発	JR 諫早駅裏 7:00 JR 西諫早駅 7:10	JR 西諫早駅 7:30	JR 諫早駅 6:00 JR 西諫早駅 6:10	JR 諫早駅 6:00 JR 西諫早駅 6:10
帰着時間	19:30 頃	18:45 頃	19:30 頃	18:00 頃
歩行時間	4.5 時間程度	6 時間程度	5 時間程度	5 時間程度
難 易 度	初心者	初心者	初心者	一般向き
交通手段	マイクロバス	船舶& 自動車	マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	有り	小浜	有り	なし
参加費	5,000 円	フェリー代・ ガソリン代 運転者への謝礼	5,000 円	5,000 円
申込期限	満員になり次第	4月12日	満員になり次第	満員になり次第
集 約	田中	江崎	佐原	佐原
備 考	夏目漱石も歩いた 連山	天草四郎の足跡 を歩いて	カタクリの花を求 めて	サクラソウの咲く時期、 保護地を見てみよう
感想提出	4/20(火)まで	4/26(月)まで	5/8(土)まで	5/10(月)まで

技術研修部から

岩登り 3月11日(木)・28日(日)

セルフレスキュー 3月27日(土)

県連写真展実行委員会から

作品展示場所

長崎市浜町「石丸文行堂4階ギャラリー」

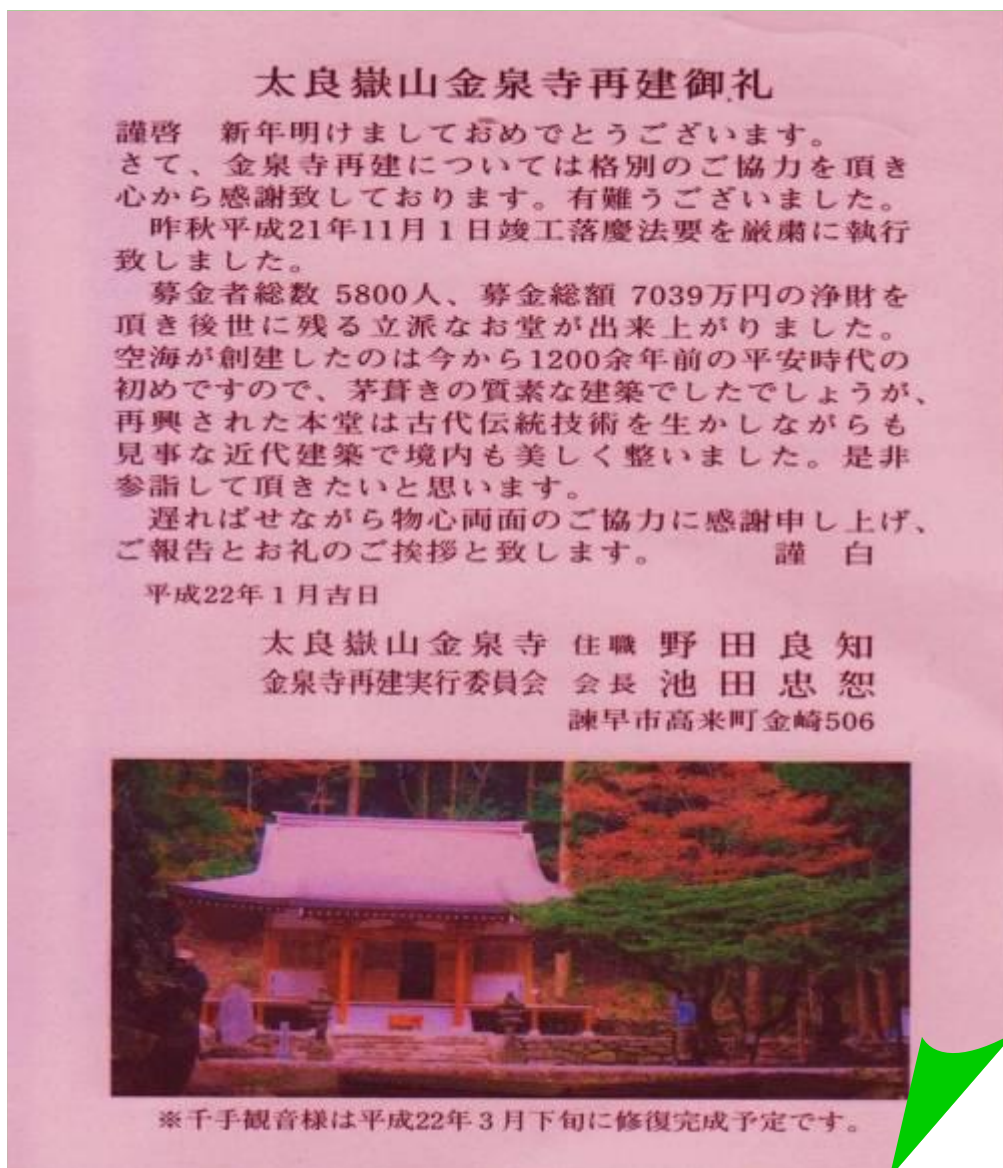
テーマ『私達の山の記憶』

展示期間

2月28日(日)～3月7日(日)まで



※ お礼のはがきをいただきました。



※千手観音様は平成22年3月下旬に修復完成予定です。



1月・2月の山行報告

1月21日(木)

湾奥三山を巡る地図と磁石の習熟

<参加者> 川原 山下 佐原 中須賀 林田 田中(紘) 川内 松尾 林 樋口 田村
下釜 佐藤 計13名

<行程>

J R 西諫早駅前 9:00→御館山 9:40→日岳 11:00→多良見虚空蔵山 12:10→
J R 西諫早駅前解散

<感想>

午前9時前までに全員が集まったので、予定の時刻にマイカー四台に分乗し、私は、下釜さん運転の車に乗せてもらい、御館山へ向け同所を出発した。御館山山頂に着くと川原さんから地図と磁石を使い、その使い方を熱心に指導していただいた。

御館山での学習を終え、日岳へと四台の車は出発した。山の中腹ぐらいいで前をはしっていた車を見失い、分かれ道のある所の近くでは「右だろうか。」「左だろうか。」と下釜さんは言いながら運転されていたが、迷うことなく山頂近くの駐車場にたどり着いた。

日岳の山頂でも御館山山頂と同じく、地図と磁石を使っでの学習、そこでも前記の講師の方々から熱心な指導をしていただいた。

日岳山頂での学習を終え、最後の目的地である多良見虚空蔵山へと向け出発し、国道34号線を多良見へ向け走っていたところ、運転していた下釜さんが、「味噌は積んでないかも知れん。買うために群れから外れると虚空蔵山への道程は分らんばい。」と心配しておられたので、同乗の田村さんが、携帯電話で連絡を取り、全車が「まるたか」に寄ることになった。その駐車場で調べたところ、ちゃんと味噌は積んでおられた。

食料担当として、車を運転しながらも、大分気を使っておられたのではと思ひ感心した。

虚空蔵山でも御館山や日岳と同じように、地図と磁石を使っでの学習、上記の講師の方々から熱心な指導を受けたので、学習の成果が100パーセントとはいかなくても、かなりのものが身に付いたのではないかと自己満足した次第である。

上記の学習は正午前には終わった。その後は近くの東屋で女性の方々は芋煮会の準備を始められた。私達食料担当以外の者達は、川原さんがロッククライミングをされているという場所を見学、高所恐怖症



の私は、怖くて怖くてまともに覗けなかった。その時、さすがはヒマラヤの山に登頂された方だけあるなと感心した。

上記の場所から東屋におりてきたところ、食料担当の方々は、芋煮作りに励んでおられ、「里芋は早く煮えるので、後しばらくしてから鍋に入れるよ。」とか、「葱は食べる時。」とか、などなどと和気あいあいとした、なごやかな雰囲気が醸し出されていた。暫くしているうちに、芋煮ができあがったので温かい芋煮をいただいた。これが何とおいしいこと。

感謝の気持ちで一杯、愚妻が、作ってくれた弁当のおかずには箸もつけずに持ち帰った。

午後2時0分ごろ、後片付けを終え、JR西諫早駅前へ向け四台の車は帰路についた。

心配していた天気も曇ってはいたが、雨一滴も降ることもなく、また、地図と磁石の使い方を学習させていただき、おまけに、おいしい芋煮まで腹一杯いただき、感謝感謝の一日であった。

最後になったが、地図と磁石の使い方を指導していただいた方々及び食料担当の方々は、前日にも買い出しなどでご苦労されたようであり、また、当日もおいしい芋煮を作ってくれようとして奮闘されていた方々に対し、改めて衷心より「有難うございました。」とお礼の言葉を申し上げたい。

(佐藤 伯隆)



なりそうである。今日はいい天気。この時期、今日は岩登りにぴったしの日であった。今年になって初の岩登りである。お正月の間、むだに身体が重くなってるような気がする。私にとって牛首岩は2度目。愛野から農道を通って途中でおやつのお饅頭を買い込む。岩を登った後このお饅頭がおいしいのだ。

雲仙の吹越あたりに近づく国道の路肩に

1月24日(日)

雲仙牛首岩の岩登り

(参加者) 川原、坂口、鎗水、國分、山下

昨日は寒い日であった。明日は雨に



は中旬に降った雪がまだのこっている。

岩も冷たいかな？

少し、むしゃぶるいする。霜柱をふんでいざ、牛首岩へ。国道から入ること25分。岩に着いた。

今日は、久しぶりの鎗水さん、岩登りはあまりやってなかった坂口さんが参加された。

國分さんも福岡から車を走らせて参加された。そう、岩登りは一人ではできないから、川原さんが教えて下さって、しかも安全にヴィレー取ってくださって本当にオレンジ会員のわれわれはラッキーだと思う。

しかし、ここの岩はいきなりオーバーハング気味で、思うように上がれない。國分さんは前回10回ほど登ったというだけにいきなりスムーズである。坂口さんは一歩一歩慎重に登っていかれる。鎗水さんは豪快。(脚が長いから)(笑い)

何回か、一番上のテラスに行きつくと遠く雲仙の頂上のあたり、うっすらと雪をかぶっているかんじ。この岩を征服したもののみ与えられる至福の時。

ルートが長いせいかあっという間にお昼になる。それぞれ日だまりを確保してランチタイム。おかずのおすそ分けも岩を登って渡したり。

午後からは、もっと長い岩へ移動。ここでも川原さんがトップにたち上でヴィレーをとってくれたので何とかやりすごせた気がする。緊張の時間はあっという間に過ぎコーヒーブレイクをして家路についた。

山下ちず子



オレンジニュース

おれんじメンバーによるお菓子作り教室開かれる

1月25日(月)1:00~16:00 西諫早地区センター内ガスホールにて

講師 田村満子

(参加者) 樋口、 田中紘、 林田 林、 川内 森

いつもロープワークや運営委員会などの時、美味しいパンやお菓子を届けてくれるオレンジ会員の方がおられる。今回、その腕をますますみがくため料理教室を開いた。講師は田村満子さん。湾奥三山で披露して下さったイチゴ大福がとても好評だった事がきっかけらしい。ここで田村さんに当時の様子を語っていただく。

(感想) かわいいケーキ、お菓子は一歩足を運んだらケーキ屋、デパート地下に所狭しとならんでいる。だが、手作りは個性が表れる。

先日、湾奥三山で地図と磁石の勉強の日、イチゴ大福を手作りし持って行った。手近な

山に三か所登って地図と磁石の勉強をしっかりとやった。豚汁の出来るまで少し時間がかか



りそうだった。皆さんの空腹をなぐさめようと、イチゴ大福をお配りしたら、ことのほか好評だった。

レシピをほしいとおっしゃる方、何名かに FAX を送ったりした。運営委員会に持って行ったトリュフも好評で教えてほしいと言われた。

せっかくだから、ガスホールを借りていっしょにお菓子作りを楽しみましょうという事になったのである。

山行の手際の良さと、日々「主婦業」のプロだから、さすがにあつというまに作業ははかどる。さつまいもを切る人、イチゴに餡をかける人、求肥で包む人。

私語もなく、表情ゆたかに、和気あいあいと

その上もくもくと、手は動かしておられて、二時間ほどで、三品（イチゴ大福、チョコトリュフ、グリーンアップルパイ）の完成である。紅茶といっしょに試食をしながら、山の話で盛り上がる事しきり。

今日のお菓子作りでオレンジメンバーはチームワークを更に強めよりしっかりした山行が出来ると確信した。
(田村満子)



2月6日(土)～7日(日)

祇園山(1307.1m)・向坂山(1684.8m)霧氷登山

参加者 川原、福岡、中須賀、井星、坂口、佐原、國分、川内、下釜、林田、田中(静) 山下、山口(い)、山崎(元会員) 14名

行程(6日) 6:00 諫早駅裏～長崎自動車道～九州自動車道御船IC～10:25 祇園山登山口
11:15 祇園山頂～下山(昼食) 鞍岡～12:30 揺山登山口～13:20 揺山山頂
五ヶ瀬ワイナリー～民宿ゆうやけ荘

(7日) 8:00 民宿発～9:05 カシバル峠～9:25 白岩山登山口(アイゼン装着)～
10:15 白岩山山頂～10:45 キリタテ越～11:15 向坂山山頂(昼食)～スキー場へ

今日の山行は九州島で最初に姿を現したと言われる九州山地の祇園山 1,307m。国道 218 号線から 265 号ひむか神話街道を経て大石越えへ。登山口には西南戦争時、薩摩軍の陣地跡の道標がある。山中から約 4 億 3,000 万年前の三葉虫やクサリサンゴ等の化石が発見され、九州最古の地層として太古のロマンを秘めた山らしい。

最初から植林混じりの急な一直線の登りが続く。遠くの山に真白の帯が見え、一見してスキー場と分かる。50 分で山頂へ。山頂は風が冷たくて寒暖計の水銀柱も -3 度までしか上がっていない。



早々に引き返し、鞍を置いたからその名がついたと言われた鞍岡で昼食。

早く終えたので午後は計画にはなかった揺山 1,335m へ。山頂近くは急登が続き、程よく馴染んだロープが息喘ぐ我々を助けてくれる。山頂気温 + 4 度。往復 2 時間の所要でバスへ戻る。

バスに揺られて宿の近くにある五ヶ瀬ワイナリーへ。整然と茶畑が続き遠くは阿蘇、九重の山並み噴煙が見える高度 1000m。ワイナリーでは地元産のぶどう、お茶の生産加工品がずらり。試飲を程よく楽しみ買い物もワインはもとより、お茶、ケーキ、酒、焼酎とさまざまな物を下げて民宿、夕焼け荘へ。食事までの寸暇を利用してリュックを使つての救助法の訓練もする。

夕焼け荘では家族総出のもてなしで、馬刺し、やまめの塩焼き、ヤーコンの味噌漬けと当地にならではの味をおいしく頂く。

女性は檜の風呂で今日の汗をながし、眠りにつく。

二日目は白岩山、向坂山へ。カシバル峠の駐車場はスキー客で満杯。スキー客はリフトで我々は歩いてのスタート。

樫、檜、姿羅の巨木がつづく。水源涵養林の標識があちこちで見られこの滴りが五ヶ瀬



川となり延岡へと流れるらしい。雪も太陽が届かない所は積もっていてアイゼンを着けたり外したりしながら杉越しの分岐点へ。更に白岩林道「登山時報」の表紙にでもなりそうな素敵な道を山頂へ。山頂は展望がよく九州山地の山々がみえる。遠くには平成新山も。

少し引き返して今度は向坂山へ。杉越からは丸太で階段状に整備された急登な道を山頂へ。山頂は裸木を通してしか見えない。山の北斜面には五ヶ瀬ハイランドスキー場があり、そり、



スノーボードを着けた若い人、子供等が気持良さそうに滑っている。地元の自然学校の生徒も活動の一つだろう。同じゼッケンの子が沢山いる。

天気も晴れてきたがスキーヤーの為に雪が解けない事を祈り乍ら山を下りた。帰りは五ヶ瀬温泉木地屋で汗をながす。

霧氷は見られなかったが五ヶ瀬町に心ゆくまで遊ばせてもらった事に感謝しながら一路諫早へ。偵察から今日迄お世話頂いた方々ありがとうございました。お世話になりました。

山口いつ子

はなまめちしき ①

「マンサク」

坂口 荘一

2月下旬～3月上旬は多良山系のマンサクが美しい時期です。特に笹南峰付近は木も多く身近に眺めることができます。

マンサクの花が開く様子



①

を写真で紹介しましょう。つぼみの時は細いひも状の花びらが1枚ずつきちんと丸まって萼のところに固まっています①。つまり、開花とはオモチャの蛇の笛をピューー！と吹いたように花びらが伸びていくことなのです。花びらは1つの花に4枚です②。

枝いっぱいにつけた花は「豊年満作」を連想させ、春まっ先に咲くことから「先ず咲く⇒マンサク」と言わしめたものなるほどと納得します③。

マンサクはマンサク科マンサク属の落葉小高木で日本各地の山地に生えます。

学名は *Hamamelis japonica* と云います。

木村陽二郎監修の「花と樹の事典」によると、属名の *Hamamelis* はセイヨウサンザシまたはこれに似た木につけられた古代ギリシャ名で、「hamos 似た」+「melis りんご」が語源とのこと。英語の **witch hazel** は直訳すると「魔女のハシバミ」となります。

日本でも古くは「シイナ（実が無い靱、実が入らずしなびた果実のこと）」とか「シイナバナ」と呼ばれていましたが、忌み詞を嫌って反対の言葉である満作（マンサク）に改められたそうです。

山形、宮城、福島県あたりではマンサクの花が上向きに咲くとその年の稲作は豊作、花が少ない年は凶作と予兆するそうです。

季題は「春」、花言葉は「靈感」。葉はタンニンを含み収斂止血剤になり内蔵出血、痔などに用いられるとのことですが、お世話になるのは遠慮して眺めるだけにおきましょう。



②



③



祇園山にて全員そろろう



コマツヨイグサ日岳にて

